

東京都高校総体本大会に期待する選手〈女子編〉

支部予選会では、各支部とも初日２３日（土）は強い雨と強風の荒天のコンディションの中ご苦労さまでした。支部によっては、追い風だったり向い風だったり、雨が強かったりと様々な条件の中でした。本大会では同一条件の中で競技し６月１７日～２０日まで千葉市で行われる南関東大会出場を目指して選手たちは頑張ります。ご声援をお願いいたします。

1.トラック

短距離・・・昨年度の記録を見ると高校１年生歴代第３位の１１秒９１という素晴らしい記録をマークした藤森 安奈（東京２）が抜きんでいる。東京都高校記録まで「１００分の１秒」に迫っているだけに当面の目標となるだろう。昨年の都新人で１・２位を分け合って以来ライバル関係にある山本 芽衣（日工大駒場３）とは１００ｍ・２００ｍともに好勝負により好記録を期待したい。両名とも故障上がりです。支部予選までは本調子ではないようだが、今大会には調子を合わせてくるだろう。二人を追うのは、今季急成長の日下部 栞（東京成徳３）山崎 真理（桐朋女子３）、柏木 真愛（都野津田２）峰 悠花・片桐 典子（東京３）、２００ｍだけに出場の新入生高森 真帆（東京１）にも注目したいところだ。

４００ｍにおいては、いまだ５７秒台の選手は見当たらないが中澤 郁香（東亜学園２）が５８秒２８と頭一つ抜け出している。村本 明日香（戸板女２）も昨年から大きく成長し５８秒７６と支部予選を勝ち抜いてきた。昨年の実績からは石井 裕里（明中八王子２）や國井 咲子（武蔵野２）安西 この実（白梅学園２）にも十分勝機があるだろう。

中長距離・・・８００ｍ・１５００ｍとも鈴木 翔子（白梅学園３）の独走が予想される。昨年の千葉国体で８００ｍに優勝し、関東新人では両種目とも独走の２冠を達成した。まさにインターハイ優勝の最有力候補であり、東京都高校新記録の更新にも期待がかかる。鈴木に続くのはチームメイトのルーキー ト部 蘭（白梅学園１）だが、今季はまだ本調子ではないようだ。しかし、調子が戻ればデットヒートが繰り上げられそう。他に是永 実季（都上水３）渡邊 なつみ（八王子３）や有望な新入生たちにも積極的なレースを期待したい。

３０００ｍでは、昨年駅伝で力を伸ばして９分３３秒５７まで記録を伸ばしてきた大舘 麗奈（拓大一３）が実力ＮＯ１だろう。しかし、茂木 美優・土田 美優・有園 早優の順天トリオ、関野 由美子・高橋 彩香・関 真里奈の八王子トリオなど駅伝強豪校の選手たちが混戦に持ち込み勝機をうかがいたいところだろう。９分３０秒を切るレース運びを期待したい。

競歩・・・今年からインターハイでは５０００ｍに距離が延びた競歩競技。昨年、実績ＮＯ１は味波 舞（八王子３）の２７分４６秒０５は群を抜いている。歩型に問題無ければ優勝は間違いないだろう。距離が延び過酷になったとはいえ、この種目に挑戦するアスリートが増えることを期待したい。

ハードル・・・１００ｍＨ・４００ｍＨとも昨年から優位にあるのが岩本 香奈（東京３）である。１００ｍＨでは１４秒５０をマークしてインターハイにも出場した。４００ｍＨでもリズムを保ち走り切ることができるので両種目とも優勝候補の一番手である。１０００ｍＨでは佐藤 あゆ子（早稲田実２）も１４秒台の記録を持ちインターハイを目指す。４００ｍＨでは岩田 美優（明中八王子３）長畑 遥子（都文京２）にも勝機があると思われる。

リレー・・・４×１００ｍリレーでは東京が断然優位である。昨年インターハイ３位・日本ユース２位で、メンバー層も厚くインターハイでも優勝候補であろう。４６秒台も十分期待でき東京都高校記録の更新も可能性がある。東京に続くのが、白梅学園・八王子・明中八王子・都文京であり４７秒台を目指してほしい。

４×４００ｍリレーは、白梅学園と東京のデットヒートが予想される。昨年の新人大会では白梅のエース鈴木 翔子がラストで抜けて勝利しており、今大会も同様なレース展開になると考えられる。都文京・明中八王子・八王子も４分を切り上位進出を目論んでいる。

2. フィールド

跳躍・・・走高跳ではルーキーの活躍が期待できる。伊東 明子（田園調布学園）と近田 万裕子（都駒場）の両一年生は1 m 6 0以上の自己記録を保持している。高校入学後どのようなコンディションであるかが問題であるが、1年生優勝も十分ありうるだろう。上級生では根岸 志帆（戸板女2）瀧 琴乃（文大杉並3）波多野 優衣（八王子2）に1 m 6 5以上での優勝を期待したい。走幅跳も1年生の活躍が予想される。林 小百合（八王子）利藤 野乃花（白梅学園）の両名には5 m 7 0以上の力があり経験もあるだけに上級生との勝負にも臆することはないだろう。昨年の新人大会で活躍した佐野 恵（都文京2）藪下 恵利佳（都足立新田2）も力があるだけにハイレベルの争いになるだろう。

投擲・・・砲丸投では支部予選で片山 友貴（都駒場3）が1 1 mに迫る1 0 m 9 6でリードしているが、昨年東京都中学記録を更新したルーキー長沼 瞳（郁文館）が優勝候補最有力であろう。重さにも慣れはじめ本来の力強さが発揮されれば1 2 mも十分可能である。この種目にも1年生が台頭しそうで、森田 栞（東京1）らが力を発揮できれば、昨年の新人大会よりはレベルが数段上がることが予想される。

円盤投では、昨年の都新人上位の菊池 絵里菜（東京3）氏原 由絵（穎明館3）記田 良恵（都武蔵野北3）岩村 里美（田園調布学園3）で優勝を争うだろう。武末 優（東京2）もこの種目に成長がうかがわれ上級生を脅かす存在になるかもしれない。しかし、3 5 mを超えることが全国大会への条件だけにどれだけこの冬力をつけたか楽しみである。

やり投では、昨年インターハイに出場した小山 夏帆（拓大一3）が最有力だろう。4 5 mを超えるビッグアーチを期待したい。記田や和田 茜（東海大菅生3）にも勝機があるだろうが、新人の長沼が高校入学後やり投げにも挑戦しており、潜在能力の高さからいきなりの上位入賞もあり得る。

3. 混成競技

七種競技・・・ハードルを得意とする馬場 つぐみ、走高跳を得意とする楠 芽衣の東京高校2年生コンビが優勝を争いそうだ。ともに投擲種目を苦手にしており、その両種目を克服できて、かつトラック種目で競り合うことができれば4 0 0 0点を大きく超えることができるだろう。また、走高跳を得意とする1年生の伊東 明子（田園調布学園）におおいなる可能性を秘めているので期待したい。この種目は男子同様、南関東大会3位までと4位以下で全国上位5名がインターハイ進出となるので最後まで1点でも上乗せできるよう頑張ってもらいたい。

4. 総合

昨年のこの大会で総合連覇を八王子高校に断たれた東京高校が復活しそうだ。特に、短距離陣は層が厚くハードルまで各種目にタレントが揃っている。フィールド各種目にも有望選手が複数おり多くの入賞者を出すだろう。東京に続くのは白梅学園で、鈴木 翔子の中距離種目を中心にトラック・フィールドともに有望な選手が揃っている。ルーキーのト部の活躍次第では東京高校と競り合う可能性も高い。また、都文京・八王子にも総合上位入賞の可能性が高い。

＊南関東大会・・・6月17日～20日まで、千葉市スポーツセンターで行われる。

＊インターハイ・・・8月3日～7日まで、岩手県北上市で行われる。「がんばろう！東北！！」

＊大会本部では、東日本大震災の復興を願い「義援金」を募っています。

集まったお金は、全国高校体育連盟を通じて被災された東北三県の高校体育連盟に送る予定です。

是非ご協力ください。

＊昨年度、平成22年度の記録を編集しました「50傑表」を販売しております。